



中学生の品位

2学期がスタートして早1か月となります。たった1か月ではありますが、喜ばしいこと・残念なこと、それぞれ様々にあった日々でした。当然ですね。学校は生きていますから。

1か月前の9月1日、始業式終了後、生徒指導主事の村田先生から次のようなお話がありました。

- 今夏、全国中総体バレーボール競技が、諫早・大村を主会場に行われたこと。
- 村田先生自身が、大会役員としてこの大きな大会に携わる中で、もっとも嬉しかったこと。それは、全国中体連の方々から、「長崎県の子供たち＝補助員」のすばらしさを褒めていただいたこと。
- とびきり素晴らしかったと、絶大なる称賛の声を頂いたとのこと。この上ない喜びであったこと。

聞きながら私もすごく嬉しかったし、多くの人の心に響く話だと思いました。子供たちにこのお褒めを頂くのが一番嬉しいのは、長崎の大人がそれを大切にしているからだと思います。そして、『長崎県の子供たちの品性』につながるものだとも思います。学校だより第11号において、長崎県の子供たちのすばらしさに触れたことと重なるものです。

さて、十日前のことです。地域にお住いの女性の方からこんなお電話をいただきました。

「私が、重い荷物をもって歩いていたところ、明峰中の男子生徒が、『大丈夫ですか。お持ちしましょうか。』と声をかけてくれたのですよ。さわやかな気持ちになりました。」

こんな立派な明峰中生がいました。ちゃんと、優しさとかさわやかさをプレゼントできている人です。嬉しくなりますね。本当に立派！！

そう言えば・・・、実は、私も去る16日、創成館高校を訪れた際に素敵な高校生に出会いました。駐車場に車を停めた後、「事務室」に行きたかった私でしたが、場所が分からなかったため、近くにいた一人の男子生徒に声をかけたのです。その生徒は、

足を負傷しているようで、一人、グラウンドの外で（駐車場の近くで）体育を見学していました。私の尋ねにその生徒はなんと、「分かりにくいですので、私が案内します。」と返してくれたのです。「いやいや、足を怪我しているのにいいですよ。」と私もお断りしたのですが、「大丈夫です。どうぞついてきてください。」と言って案内してくれました。用事を済ませて車に戻った際も、「おかげで助かりました。ありがとうございます。」とお礼を言うと「よかったです。お疲れ様です。」と返ってきました。なんと立派な高校生か。

いつも思います。中高生の優しさ、さわやかさには、不思議な力がある。大人を、地域を動かす力が中高生にはあると思っています。中学生としての品位を保ち、磨くことは、とても大切です。今週の校長室前黑板にこのように記しました。

～品位を保つ～

言葉遣い、身なり、姿勢に美しさをもつ。
腹が立った時も、感情のコントロールができる。
今、すべての明峰中生に聞きたい。
あなたの言動は、**品位が保たれた**ものであるか。
中学生としての品位に甘さはないか。

優しくてさわやかな明峰中生の言動に数多く出会えた一方で、品位に欠ける言動が散見された1か月間でもありました。それは残念なことです。

26日(金)、村田先生から、全校生徒に向けて、図書室や保健室等での過ごし方として、次のようなお話がありました。

校舎2階には、職員室・校長室・相談室・保健室・図書室が並んでいます。これらには、共通点がある。それは、「マナーを守り、配慮を要するゾーン」だということ。どんな町の図書館でも図書館で騒ぐなどということはあってはならないはず。それから、保健室は、社会で言えば病院ですよ。病院で騒ぐことなどありえない。優しさをもって過ごしてください。そして、2階には多くのお客様が訪れます。さわやかな挨拶を届けてください。

中学生は大人の一手手前です。中学生としての品位。御家庭でも話題にいただければ。